

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

## 化学品の名称:

製品名称: 安息香酸 (国産1級)

製品番号(SDS NO): D000761-2

## 供給者情報詳細

供給者: 国産化学株式会社

住所: 東京都中央区日本橋本町3丁目1番3号

担当部署: 品質保証部

電話番号: 045-328-1715

FAX: 045-328-1716

e-mail address: cs@kokusan-chem.co.jp

緊急連絡先: 国産化学株式会社 横浜事業所 神奈川県横浜市西区北幸2-8-29

## 2. 危険有害性の要約

## 製品のGHS分類、ラベル要素

## GHS分類

## 健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分 1

生殖毒性: 区分 2

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 2(上気道)

## 環境有害性

水生環境有害性(急性): 区分 3

(注)記載なきGHS分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

## GHSラベル要素



## 注意喚起語: 危険

## 危険有害性情報

重篤な眼の損傷

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

水生生物に有害

## 注意書き

## 安全対策

環境への放出を避けること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

## 応急措置

気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。

直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

## 貯蔵

施錠して保管すること。

#### 廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：

化学物質

化学的特定名：安息香酸

慣用名、別名：フェニルカルボン酸、ベンゼンカルボン酸

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号	化学式
安息香酸	99.5 $\leq$	65-85-0	3-1397	C7H6O2

### 4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

吸入：咳、咽頭痛

皮膚：発赤、灼熱感、痒み

眼：発赤、痛み

経口摂取：腹痛、吐き気、嘔吐

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

### 5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

特有の危険有害性

粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉塵爆発の可能性がある。

酸化剤と反応する。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

消火を行う者の保護

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 関係者以外は近づけない。
- 回収が終わるまで十分な換気を行う。
- 適切な保護具を着用する。
- 着火源を取除くとともに換気を行う。

### 環境に対する注意事項

- 上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 掃き集めて、容器に回収する。
- 湿らせてもよい場合は、粉塵を避けるため湿らせてから掃き入れる。
- 残留分を多量の水で洗い流す。

### 二次災害の防止策

- 汚染箇所を水で洗い流す。
- 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- 全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

##### (取扱者のばく露防止)

- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

##### (火災・爆発の防止)

- 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
- 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

#### 局所排気、全体換気

- 排気/換気設備を設ける。

#### 注意事項

- 皮膚に触れないようにする。
- 眼に入らないようにする。
- 粉じんの堆積を防止する。

#### 安全取扱注意事項

- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 保護手袋/保護眼鏡/顔面保護具を着用すること。
- 指定された個人用保護具を使用すること。
- 取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。

#### 配合禁忌等、安全な保管条件

##### 適切な保管条件

- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- 涼しいところに置き、日光から遮断すること。
- 施錠して保管すること。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理指標

#### 管理濃度データなし

### ばく露防止

#### 設備対策

- 排気/換気設備を設ける。
- 洗眼設備を設ける。
- 手洗い/洗顔設備を設ける。

**保護具****呼吸用保護具**

呼吸用保護具を着用すること。

**手の保護具**

保護手袋を着用する。

**眼の保護具**

側面シールド付安全メガネまたは化学品用ゴーグルを着用する。

**衛生対策**

眼、皮膚、衣類につけないこと。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

取扱い後はよく手を洗う。

**9. 物理的及び化学的性質**

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

**物理的状态**

形状：結晶または粉末

色：白色

臭い：特有臭

pH：水溶液は弱酸性である。

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点：249°C

融点/凝固点：(begins to sublime at 100°C) 122°C

燃焼性(固体、ガス)：可燃性

引火点：(安息香酸)(C.C.) 121°C

自然発火温度：570°C

蒸気圧：0.1 Pa(25°C)

相対蒸気密度(空気=1)：4.2

20°Cでの蒸気/空気混合気体の相対密度(空気=1)：1

比重/密度：1.3

**溶解度**

水に対する溶解度：0.29 g/100 ml(20°C)

n-オクタノール/水分配係数：log Pow1.87

**10. 安定性及び反応性****化学的安定性**

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

100°Cで昇華し始める。

**危険有害反応可能性**

爆発性の粉塵-空気混合物を形成するおそれがある。

**避けるべき条件**

直射日光、熱、混触危険物質との接触

**混触危険物質**

酸化性物質

**危険有害な分解生成物**

炭素酸化物

**11. 有害性情報**

毒性学的影響に関する情報

**急性毒性**

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

ラットのLD50値として、1,700 mg/kg(環境省リスク評価第7巻: 暫定的有害性評価シート(2009)、SIDS(2004))、2,530 mg/kg、2,565 mg/kg(SIDS(2004))、2,700mg/kg(JECFA FAS5(1974))、3,040 mg/kg(SIDS(2004)、CICAD 26(2005))の報告がある。該当数の多い区分外とした。

#### 急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]

ウサギのLD50値として、> 2,000 mg/kg、> 5,000 mg/kg(SIDS(2004))、> 10,000 mg/kg(SIDS(2004)、CICAD 26(2005))の報告に基づき、区分外とした。

#### 急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]

ラットの4時吸入ばく露におけるLC50値 > 12.2 mg/L(SIDS(2004))に基づき区分外とした。なお、LC50値は飽和蒸気圧濃度(0.005 mg/L)以上であり、試験は粉じんで行われたとの記載に基づき、mg/Lを単位とする基準値を適用した。

#### 局所効果

##### 皮膚腐食性・刺激性

[日本公表根拠データ]

SIDS(2004)には、テストガイドラインに準拠した試験で「軽度の刺激性」又は「刺激性なし」と報告されている。一方、エタノール又はクリームに0.05%含有する本物質を用いたパッチテストで614人中18人で刺激性がみられたとする報告やワセリンに0.5%含有する本物質を用いたパッチテストで32人中7人で蕁麻疹がみられたとの報告があるため、分類できないとした。

##### 眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]

SIDS(2004)において、テストガイドラインに準拠した試験で「重度の刺激性」又は「腐食性」と報告されていることから、区分1とした。

#### 感作性

##### 皮膚感作性

[日本公表根拠データ]

SIDS(2004)には、テストガイドラインに準拠した試験で「感作性なしとするデータが多数報告されている。一方、ヒトへの影響としては、ワセリンに0.5%含有する本物質を用いたパッチテストで32人中7人で蕁麻疹がみられたとの報告(SIDS(2004))、皮膚科の患者2,045人に、5%濃度の本物質Na塩でパッチテストを行った結果、陽性反応のみられたのは5人(0.2%)のみであったとする報告や、化粧品に対してアレルギーや刺激症状があると考えられる患者5,202人に本物質でパッチテストを行った結果、34人(0.7%)で陽性反応がみられたとする報告など、感作性ありとする報告が多数がある(環境省リスク評価第7巻: 暫定的有害性評価シート(2009))。しかし、SIDS(2004)では、健康なヒトでは感作は起こり難いと結論していることから、分類できないとした。

#### 生殖細胞変異原性

[日本公表根拠データ]

データ不足のため分類できない。すなわち、本物質に関するin vivoデータはなく、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、JECFA FAS 48(2002))。ただし、SIDS(2004)では、本物質及びその関連物質である安息香酸ナトリウム、安息香酸カリウム、ベンジルアルコールを含め、突然変異性及び染色体異常誘発性はないと記載している。

#### 発がん性

[日本公表根拠データ]

本物質は、EPAでグループD(IRIS(1991))のため、分類できないとした。

#### 生殖毒性

[日本公表根拠データ]

ラットを用いた経口経路(混餌)での4世代生殖毒性試験において生殖・発生毒性はみられていない(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、環境省リスク評価第7巻: 暫定的有害性評価シート(2009)、HSDB(Access on September 2013))。また、発生毒性に関しては、ラットを用いた経口経路(強制)での発生毒性試験において胚吸収の増加がみられた(HSDB(Access on September 2013))との報告と発生毒性はみられていない(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、環境省リスク評価第7巻: 暫定的有害性評価シート(2009))との報告、ハムスターを用いた経口経路(強制)での発生毒性試験において胚吸収の増加と奇形の増加がみられている(HSDB(Access on September 2013))との報告がある。発生毒性がみられたとの報告がリスト2の情報源からのみであることから、区分2とした。

催奇形性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[区分2]

[日本公表根拠データ]

ラットの経口ばく露及びウサギの経皮ばく露では区分2のガイダンス値を上回る用量においても毒性所見は見られていない(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、IUCLID(2000))。一方、ラットに本物質エアロゾルを4週間吸入ばく露した試験では、区分2のガイダンス値の範囲内(ガイダンス値換算濃度:0.078 mg/L)の濃度で上気道の炎症、腎臓重量の減少が見られている(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、IUCLID(2000)、HSDB(Access on October 2013))が、腎臓は病理組織変化を伴っておらず、標的臓器とするには不十分であると判断した。以上の結果から、区分2(上気道)とした。

吸引性呼吸器有害性データなし

## 12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

水生生物に有害

水生毒性(急性)成分データ

[日本公表根拠データ]

魚類(ブルーギル)の96時間LC50 = 44.6 mg/L(SIDS, 2004)から区分3とした。

水生毒性(長期間)成分データ

[日本公表根拠データ]

信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急速分解性があり(2週間でのBOD分解度=85%(既存点検, 1979))、急性毒性は区分3であるが、生物濃縮性が低いと推測される(LogP=1.88(SIDS, 2004))ことから、区分外とした。

水溶解度

0.29 g/100 ml (20°C) (ICSC, 1999)

残留性・分解性

急速分解性があり(BODによる分解度:85%(既存点検, 1979))

生体蓄積性

log Pow=1.87 (ICSC, 1999)

土壤中の移動性データなし

オゾン層破壊物質データなし

## 13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行なって危険有害性のレベルを低い状態にする。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は清浄して関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

## 14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号に該当しない



## 15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令  
毒物及び劇物取締法に該当しない。  
労働安全衛生法に該当しない。  
化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。  
消防法に該当しない。  
化審法に該当しない。

## 16. その他の情報

### 参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN  
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 19th edit., 2015 UN  
Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)  
2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)  
2016 TLVs and BEIs. (ACGIH)  
<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>  
JIS Z 7253 (2012年)  
JIS Z 7252 (2014年)  
2015 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)  
Supplier's data/information

### 責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の見取りを対象としたものであって、特殊な見取りの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。  
ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。  
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。